



CASE 3

社会医療法人北海道循環器病院

副院長・看護部長

村木 弘美 さん

Profile

設立年:1981年

職員数:女性198名/男性80名

事業内容:医業

データの見える化など時代に合った変化を

病院には、医師、看護師、理学療法士など、さまざまな職種があり、それぞれのスタッフが高い専門性を持って仕事にあたっています。それゆえ、他の部署がどのような作業をしているのかなど、分かりづらい部分があります。感覚や精神論で考えるのではなく、データを見える化することで横のつながりを大切に、時代に合わせて変えられる部分は変えていきたいと考えています。

コロナ禍において、濃厚接触や家族の発熱などで出勤停止になることが多かったですが、在宅ワークとして勤務するスタッフもいました。

子育て世代が 働きやすい環境作り

当病院の看護師は平均30歳で、6~7割が20代と若いスタッフが多いです。子育て中の人も大変多いため、時差出社や時短勤務などを柔軟に認めています。子どもの通院の付き添いや学校行事など、スタッフ間で状況を常に把握し、勤務時間の調整や、時間有給を活用できるようにし、小さい子どもを持つスタッフにとって、働きやすい環境を目指しています。

女性スタッフにおいては、産休・育休の取得率は100%ですが、男性スタッフは未だ25%です。ワーク・ライフ・バランスを考え、今後は女性も男性も働きやすく、効率性を求めた病院現場を作っていきたいと考えています。



ROLEMODEL

理学療法士

(社会医療法人 北海道循環器病院 心臓リハビリテーション指導士)

村井 明人 さん

家族構成:妻、長女、次女

夏は庭の畑で植物を育てたり、冬は庭でソリ遊びをしたりなど家族で楽しんでいる。



家事の担当は決めず できる方ができることを

次女が生まれたときに、2か月間の育児休暇を利用しました。長女の保育園の送迎もあり、出産後は妻だけだと大変だと思ったからです。最初の1か月間は家事全般と、長女の保育園の送迎を担当。2か月目からは少しずつ妻とも分担するようになりました。

中学生のときぐらいから家事全般はできたため、結婚後も生活の一部として家事を行っています。その時できる方が、できることをやる、というのが夫婦のスタンスです。

新生児と1日中触れ合うことは とても貴重な経験

子どものイヤイヤに苦労することもあります。なるべくイライラしないよう努めています。お互いイライラしているときは、一人の時間を作ってガス抜きをすることが、夫婦が仲良くいるための秘訣です。

生まれた直後の育児に関わることは貴重な経験なので、育児休暇を取ることを周りの人にもおすすめしたいです。赤ちゃんは昼夜関係なく時間が不規則で、思っていたよりも育児が大変でした。妻が育休中だからといって全てを任せるのではなく、家事や育児は分担すべきだと思いました。長女のときには取らなかった育児休暇を取得することで、分かったことが多かったです。

Q & A

ロールモデルの方に、ワークライフバランス、アンコンシャス・バイアスや仕事の取り組み方について訊いてみました！

Q

ワークライフバランスや家庭参画に向けてあなたが気をつけている無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)を教えてください。

「女性だから」と家事を全て負担させることが無いよう、分担しています。「女性だからやって」という意識も持っていません。

A

Q

仕事のやり方であなたが具体的にしている取組や工夫を教えてください。

出来るだけ作業を簡単に進められるように考えながら働いています。記録などで毎日Excelを使うため、手作業で行っていた繰り返し作業を可能な範囲でVBAで自動化し、作業効率を上げる工夫をしています。

A